

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(小35) 長崎市立(西町小)学校

1 教育目標

心豊かで実践力のある心身ともに健康な子の育成

2 学校経営方針

「生き生きのびのび西町っ子」
【めざす学校像】○活気にあふれ生き生きとした学校 ○明るい笑顔で思いやりのあるさわやかな学校 ○たくましい心と体を育てる力強い学校
【めざす児童像】○よく考える子ども ○明るく思いやりのある子ども ○健康でたくましい子ども
【めざす職員像】○自ら研修に励み、自己を磨く職員 ○いつも子どもとともにあり、温かく子どもと接する職員
○協調性と実践力を備えた職員

3 重点目標

- ①学びに向かう力を身に付けた子供を育成するために
・共通認識・共通実践 ・主体的対話的で深い学びの授業を通じた実践 ・一人一台端末を活用した授業展開及びAIドリル（キュビナ）の活用を充実させる。・特別支援教育の充実 ・考え議論する道徳科授業の展開
- ②礼儀正しく、思いやりのある子どもを育成するために
・3つのあを本物にする。「あいさつ」「あるき方」「あとかたづけ」 ・心をつなぐ人間関係づくり ・人権教育の推進と、いじめを許さない毅然とした指導
- ③健康でたくましい子どもを育成するために
・心と体にたい力をつける機会や場の工夫
・心をみがく清掃活動

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	85	81	55.6	児童・保護者は肯定的評価が高く、学校の方針がよく浸透していると考えられる。教職員の評価が低い、伸びしろがあり今後も向上しうる必要を感じているためである。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	92	88	55.6	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			88.9	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	82	86	27.8	生活指導に関する項目で「ルール」「挨拶」に関して、教職員よりも児童、保護者の方が肯定的評価が高い。教職員がかなり低い評価になっているのは、ここが現在の西町小の課題だととらえているためである。心の教育に関して、保護者への啓発のため、懇談会等を通じて、学校の活動を多く知らせる必要がある。
		挨拶をよくしている	89	72	44.4	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	79	68	33.3	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	70	78	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	81	83	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	92	89	61.1	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	91	76	66.7	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	95	86	83.3	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	56	91	100	「わかりやすい授業」が児童・保護者の肯定的割合が高い点は、非常にうれしい。「読書指導」の肯定的評価が低いのは、校舎移転に伴う学校図書館の閉鎖の影響もあるが、家庭に向けた取組を一層強化していく必要がある。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	93	88	72.2	
		家庭学習の習慣が身に付いている	83	65	88.9	
	キ ャ リ ア 教 育	将来の自立に向けて適切に指導している	68	74	88.9	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	81			
読 書 指 導	読書の習慣が身に付いている	65	38	67		

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	92	83	100	「早寝・早起き・朝ごはん」「体力向上」の肯定的評価が低く、家庭との連携した取組が急務である。ただ体力向上については、校舎移転に伴い運動場が一部しか使用できないため、引き続き補うための活動を考えている。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	76	76.8	66.7	
		体力向上に努めている	66	63	67	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	77	85	89	
信頼される学校						どの項目も肯定的評価が高く、教職員・学校の動きがよい評価を得ている。引き続き、信頼される学校を目指して、やるべきことをしっかり取り組んでいく。
	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	89	90	100	
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	80	85	94.4	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	83	91.6	94	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			94	
教育環境						「職場環境」では、教職員の肯定的評価が高く、働き方改革の趣旨が浸透してきたと考えられる。
	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	90	81	67	
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			83	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○児童の回答では、肯定的評価が8割以上の項目は全24項目のうち16項目ある。この点について昨年度より少し低下した結果となった。「心の教育」の領域のうち「人権教育」「平和教育」「特別支援教育」の項目での肯定的評価が90%以上と高い評価を得ている。「体力向上」の肯定的評価が、ここ数年7割程度であるため、まだ運動場の整備が終わっていないが、限られた広さでも工夫して運動量が確保できるように検討したい。

○保護者の回答では肯定的評価が8割以上の項目は全23項目のうち14項目であった。この点について昨年度と同等の結果となった。「信頼される学校」の領域が昨年度よりどの項目も伸びていることは、学校の取組等を評価していただいていると考え、今後も家庭との連携を深めていく。

○教職員の回答では肯定的評価が8割以上の項目が全27項目のうち15項目であり、昨年度の24項目から大きく下がっている。自己評価が低いのは、教育に対する危機感を持ち、まだまだやれるという意欲の表れだと感じ、今後の教育活動を行うターニングポイントとしていきたい。今後も職員間で課題を共有しながら、子供たちの成長へとつながっていききたい。「教育環境」については、新校舎に移ったことでさらに充実したものへとなるように努力していく。

6 学校関係者評価

○朝の挨拶をしっかりとってくれる子供もいる。道を譲るなど、心優しい子も見掛ける。

○ルールやマナーの評価で先生方と児童の認識に差がある。子供自身はできている気になっているのではないかな。

○ネットでの誹謗・中傷など、先生たちの知らない情報がある。子供に携帯電話を持たせるときにはリスクもきちんと伝えて管理する必要がある。

○学校からの発信をしてほしい。学校が行っていること(学校行事など)を地域に知らせてほしい。

○学校だけでよくしていくことは難しい。家庭の協力を得て、高めていく必要がある。先生や地域の方、何より保護者が見本になる。ルールやマナーは自然と身に付くものではなく、教えないと身に付かない。地域には、学校の役に立ちたいと思っている人も。そのような方々に、協力を求めているのではないかな。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学校評議員の方と地域や児童の状況など、可能な限りの情報共有を行った。次年度も関係機関としっかり連携を図りながら、子どもを中心に据えた教育活動や取組を愚直に行っていく。

○基本的習慣に関わる項目については、学校として大きな課題ととらえている。学校での指導はもちろん、育友会を通じて継続的に保護者への啓発と働き掛けを継続的に確かめながら進めていく。

○いじめや悩みの相談などについて、児童や保護者に寄り添いながら真摯に対応していく。